

平成26年度病害虫防除技術情報第5号

平成26年7月8日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

台風の影響による病害対策について

7月の台風8号の接近に伴う強風と豪雨の影響で、農作物の茎葉の傷みや圃場の浸冠水、多湿等により、病害の発生が懸念されます。また、向こう1か月の気象予報によれば、気温は平年並ですが、降水量は平年並か多い確率が高いと予想されています。今後の病害の発生に注意するとともに、速やかな防除に努めましょう。

1 注意を要する病害

作物名	病害名	対策および留意点
水稻	白葉枯病	<ul style="list-style-type: none"> 常習発生地域や冠水した圃場では、いもち病との同時防除を兼ねてオリゼメート粒剤の本田処理を行う。
カンキツ類	かいよう病 黒点病	<ul style="list-style-type: none"> 露地カンキツでは黒点病対策にジマンダイセン水和剤またはペンコゼブ水和剤を散布し、かいよう病対策としてコサイド3000(クレフノン加用)またはカスミンボルドー(クレフノン加用)を散布する。 露地カボスではコサイド3000(クレフノン加用)を散布する。 枯れ枝、感染葉を園外へ持ち出し処分する。 大枝が裂けた場合はトップジンMペースト等で保護する。
ナシ	炭疽病 黒星病	<ul style="list-style-type: none"> 幸水・豊水・なつしずく・あきづきではストロビードライフフロアブル、新高・新興ではオーソサイド水和剤80、豊里ではデランT水和剤、二十世紀ではオキシラン水和剤を散布する。 大枝が裂けた場合はトップジンMペースト等で保護する。
ブドウ	べと病 褐斑病 晩腐病	<ul style="list-style-type: none"> 一部被覆ピオーネ、シャインマスカットではべと病対策としてレーバスフロアブルまたはICボルドー66D(アビオンE加用)を散布する。 7月上旬に褐斑病・晩腐病防除を行っていない場合はオンリーワンフロアブルを、晩腐病の多発が予想される場合はストロビードライフフロアブルを散布する。 露地巨峰、一部被覆マスカットベリーAではべと病対策としてレーバスフロアブルまたはICボルドー66D(アビオンE加用)を散布する。
夏秋トマト 夏秋ピーマン	斑点細菌病 疫病	<ul style="list-style-type: none"> ハウスピーニールが剥がれた場合は、速やかに復旧する。 傷んだ茎葉を除去し、主枝を糸やネットで誘引する。
白ネギ	黒斑病	<ul style="list-style-type: none"> 多湿条件下で多発するため、圃場の排水を良くする。 多雨により肥料切れする場合は多発しやすくなるため、適正施肥に努める。
	軟腐病	<ul style="list-style-type: none"> 多湿条件下で多発するため、圃場の排水を良くする。 過度の土寄せは発病を助長するため、避ける。 オリゼメート粒剤を施用している場合、多雨により残効が短くなっているため、2回散布を行う。
イチゴ	炭疽病	<ul style="list-style-type: none"> 病斑の早期発見に努め、発病株の周辺も含め処分する。 降雨により病原菌が飛散するため、雨よけ施設による育苗を推奨する。

2 基本的な防除の考え方

- 1) 病害の発生が見られる圃場では、治療効果のある薬剤を散布した後、予防剤を中心としたローテーション散布へと移行するのが効果的である。
- 2) 過湿により発生が助長される病害については、排水対策などを十分に行う。
- 3) 施肥量の過不足により病害の発生が拡大する場合がありますので、適正施肥に心がける。

3 薬剤使用上の注意事項

- 1) 作物によって使用できる防除薬剤が異なるので、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し使用する。
- 2) 薬剤によっては、高温時に薬害を生じやすいものがあるため、散布時間や天候、使用する展着剤の種類等に十分注意した上で散布を行う。
- 3) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないように心掛ける。
(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>)